

# 北海道浮魚ニュース

平成 19 ( 2007 ) 年度 13 号 ( 通巻 No. 246 )

2007 年 8 月 27 日

北海道立水産試験場

ホームページ : [http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki\\_index.htm](http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm)

## 道南太平洋スルメイカ南下期調査結果

8 月下旬の分布密度は下北半島東沖で昨年より高く、函館沖で昨年より低い。魚体サイズは昨年と同程度。

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：2007 年 8 月 20 日～24 日
- ・調査海域：道南太平洋（函館沖～浦河沖～下北半島東沖）
- ・調査船：金星丸（イカ釣機 5 台、イカ用集魚灯 20 灯装備）

昨年（2006 年 8 月 21 日～25 日）及び近 5 年（2002～2006 年）のデータと比較しました。

### 1. 水温分布

恵山沖の St.1 については、悪天候のため水温の観測を中止しました。他の漁獲調査地点 3 点の表層水温は 20.2～22.2（昨年 21.7～24.3）、水深 50m 層の水温は 11.8～16.8（昨年 12.2～17.8）で、いずれも、全ての調査点で昨年の水温を下回りました（図 1、2）。

### 2. 分布密度

漁獲調査地点 4 点のうち、恵山沖の St.1 と浦河沖の St.16 は悪天候のため調査を中止しました。調

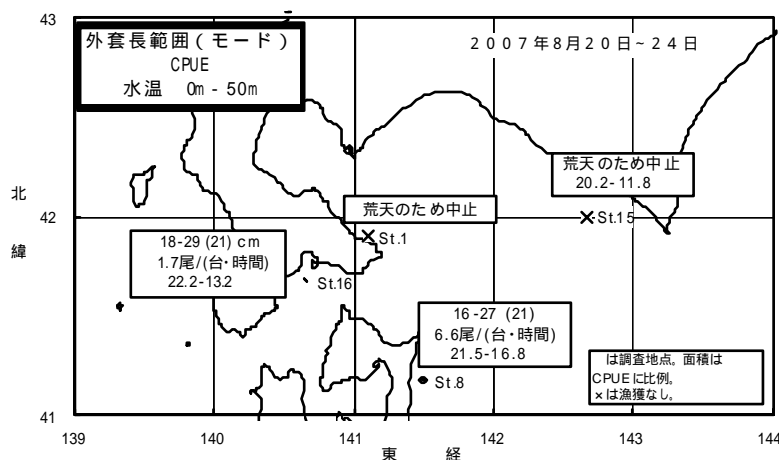


図 1 道南太平洋スルメイカ南下期調査結果 (2007 年)

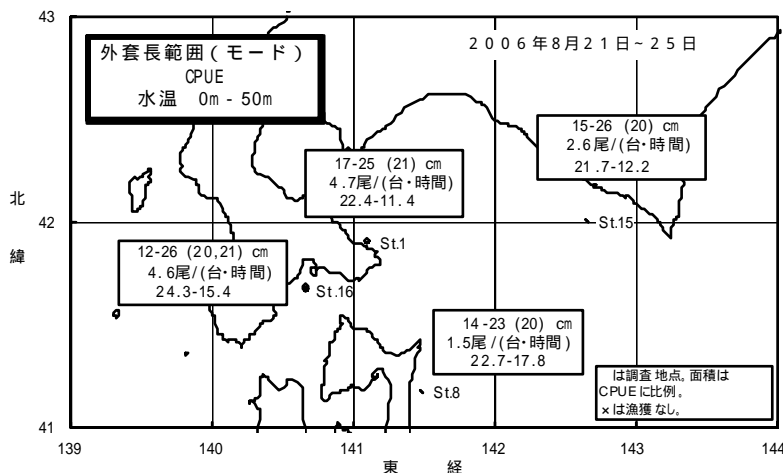


図 2 道南太平洋スルメイカ南下期調査結果 (2006 年)

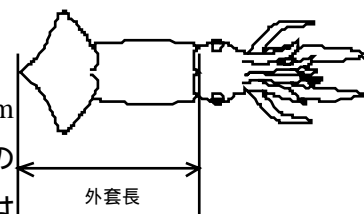
表1 道南太平洋スルメイカ南下期調査時のCPUEと外套長の経年変化

	2002(H14) 8/26-8/30	2003(H15) 8/25-8/29	2004(H16) 8/18-8/26	2005(H17) 8/22-8/26	2006(H18) 8/21-8/25	2007(H19) 8/20-8/24
St.1(恵山沖)CPUE	42.0	15.9	10.3	3.4	4.7	-
St.8(下北半島東沖)CPUE	-	-	24.3	26.7	1.5	6.6
St.15(浦河沖)CPUE	14.3	49.9	18.8	23.5	2.6	-
St.16(函館沖)CPUE	1.0	3.9	2.3	-	4.6	1.7
平均CPUE(尾/台・時間)	19.2	23.2	13.9	17.9	3.3	4.1
外套長の範囲(cm)	18-28	12-27	15-26	15-26	12-26	16-29
外套長モードの範囲(cm)	22-24	15,21	20-23	19-20	20-21	21

査を行った2地点のCPUE(2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数)は、下北半島東沖のSt.8では6.5で昨年(1.5)を上回り、函館沖のSt.16では1.7で昨年(4.6)を下回りました(図1、2)。両地点の平均CPUEは4.1で、昨年の同じ2地点の平均(3.1)及び全調査点の平均(3.3)を共に上回りましたが、近5年(2002年以降)の全調査点の平均との比較では2番目に低い値でした(表1)。

### 3. スルメイカの大きさ

スルメイカの外套長(胴長)は、調査点全体で18~29cm(昨年12~26cm)の範囲にありました。調査海域全体の外套長のモード(最も多く漁獲されたイカの大きさ)は



昨年と同じ21cmにあり、全体として、昨年より小型の個体が少ない傾向が見られました(図3)。各調査点のモードはいずれも21cmでした(図1)。

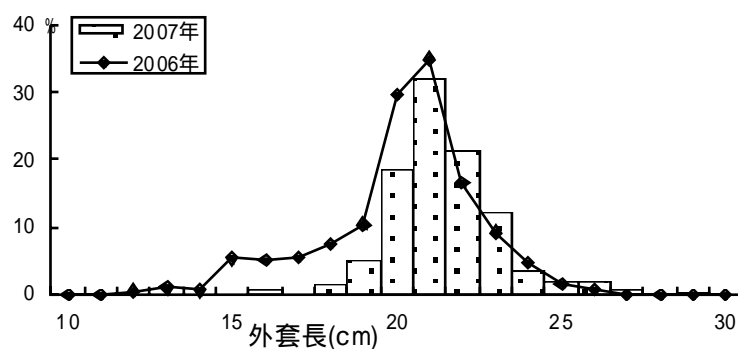


図3 調査海域全体の外套長組成

(文責：函館水産試験場資源管理部、TEL：0138-57-5997 直通、FAX：0138-57-5991)